

1
A) 昨年秋のいわゆるキューバ危機は、^{©2022 YHAI, YITP, Kyoto University} 戦慄を改めて感じさせた。この危機の余波はなお今日まで息を止まらず、^{京都大学基礎物理学研究所 湯川記念館史料室} ~~世界~~ ^{世界の} 現在の国際緊張の真相を明らかにし、~~平和を~~ 平和を確保するための具体策を探し求めるといふ課題のすべての人々に課せられた課題の重要性を~~切実に~~ ^{緊急な} 重要性をますます切実に感じさせる。

私達は本会議において、昨年発表した科学者京都会議の声明を今日の時点において全面的に再確認するとともに、アジアをめぐり国際情勢と科学者の社会的責任の問題を中心に討論を行いました。

合意に達した主要な諸点は次のとおりです。

1. 最初に、科学はいつか誤って考えられているように戦争と平和なく、平和と結成ついで発展するものであることを強調します。科学の発展には平和が存在することが条件であり、また、科学の発展は平和の創造に寄与するところから、このことから、科学の事業にたづさわるものは平和を要求する権利が生れるとともに、また科学者としての立場から平和の確保に積極的に貢献すべき社会的責任も生じてきます。この立場を確保しつつ、^{わが国の} 科学者は広く団結して学術の健全な発展のための計画を自主的につくり上げる必要があり、同時に、すべての国の科学者と平等互恵の立場に立つて大規模な国際協力を行うべきこと

c092-006-014

ありませう。日本学術会議の報告に勸告した科学研究所
 本法の意義は上述の見地からも強調されべきでありませう。
 また、科学者は今日、自らを狭い専門に閉ざさず、しかも
 自らの専門を生かしてついで平和を確保するという事業に参
 加し、その責任を果すための努力を怠らざるべきであると
 考えます。

2. 米国の世界核戦術体制は、軍事技術の進歩を背景とし、
 キューバ事件以後もなお急速な展開をなしている。
 最近の原子力潜水艦のわが国の港への寄港問題をその
 一つのあらわれとして、沖縄を含むわが国の核戦術上
 の比重はそれにとってもなお急激に高まっている。しかし、
 2053年核戦術体制の強化は、「パワーステツ会強か
 つとは指摘しているように、世界諸国民の安全を保障する
 どころか、逆に核戦争勃発の危険を増大させるばかり
 であります。私達は、わが国が、全面完全軍縮の実現
 を当面の現実的な目標として、一日も早く外国の核戦
 術体制の更なる進展を脱し、核非武装の原則を貫くべき
 であると考えます。これはわが国が平和憲法を守り、
 アジアの平和に貢献するに必要で最低条件である
 といえるでしょう。

©2022 YHAL, YITP, Kyoto University
京都大学基礎物理学研究所 湯川記念館史料室

3. 第二次大戦後、とりわけアジア地域において、久にわたる植民地状態から脱却して自由、独立の道を歩むことのできる諸民族の運動が、ますますの帝国主義的干渉とつばげこみ抗争のうらみに昂揚しております。私達はかつて中・朝鮮はアジア諸国に對して取つたべき帝国主義的侵略者であり来た故に、今後再び同様の犯罪をくり返すまいと決心するとして日本人として第一義的を道義的信念を存せねばなりません。また、極度に低い生活水準に悩む植民地あるいは低開発諸国の存在そのものが国際緊張の結果でもあり要因でもあるという深刻な事態が存在します。この事態の解決のため、科学が少なからざる貢献を存せざることはウィーン宣言以来、ハグオワシエ会議が再三指摘しているところでもあります。^{私達はこの点に、}日本の科学者が、アジア人の一員として、諸民族の独立の達成と、民族の主权にもとづく平和な生活の確立を切実に願^{う立場に立つて、}その技術力を生かして^{いささかの}貢献をなすべき可能性をみとめざるべきであります。

4. 私達はアジア地域におけるすべての緊張や紛争の根源が中・米両国家の不正常な関係にあると考へます。米日は22十数年にわたり中口に對して實質的な戦争状態を続けていいると言わねばなりません。中・米両国家のこの紛争の持続は、わが国の将来にとって最も望ま

これからのものであり、その結論にもとづいてこの紛争を終息せしめるための可能な発見に努める特別の責任を負っています。この点について私達の到達した結論は、わが国が自主的な努力によって再び第一に日・中両国の正常な関係を回復するのとせば、上述の中・米両国間の紛争を終息せしめるための可能な最も有効な手段であり、国際緊張緩和に向けたわが国の存在で最大の貢献であるということになります。

以上は、私達は、今回の交渉によって到達した、一、二の具体的な提案を含む結論の主要な点を列挙しました。

私達は、この結論が、すべての日本の科学者、技術者によって、また、できる限り多くの国民によって理解されることを望みます。